

本日の内容項目《 規則の尊重 》 【A・B・**C**・D】（○で囲む）

A：主として自分自身に関すること

B：主として人との関わりに関すること

C：主として集団や社会との関わりに関すること

D：主として生命や自然、崇高なものの関わりに関すること

本日の主題名《 すこしぐらい 》

【1】主題解釈：この主題を学ぶ意義を捉えよう。

（1）まず「内容項目」について、自分自身の捉えを書き出してみましょう。

		自分なりに考えて（自己理解）	他の先生方と話して（他者理解）
価値理解	① この内容項目の大切さ ※それはなぜ大切なのでしょう	・きまりは守らなければみんなが困る。 ・自分の気持ちだけを優先してはいけない。	・きまりがあること、それを守ることの意味とは何か考える。他人が困るから規則がある。
人間理解（誰にでもある弱さ）	② この内容項目の難しさ ※いつでもできますか。誰に対してもできますか。	・きまりを守ることが大切であることは分かっている、自分の気持ちを優先してしまったり、「少しぐらいなら」という考えになってしまったりする。	・「自分だけなら大丈夫」「少しぐらいなら大丈夫」と考えてしまいいやすい。 ・「あの人もしているから」「自分だけではないから」と考えてしまう。 ・大切に思うものは人それぞれ違うため、「自分には関係ない」と思ってしまう。
人間理解（弱さを越えてよりよく生きようとする強さ）深まった価値理解（新たな気づき）	③ それでもなおの大切さ ※難しさを越えて大切にしたいのはなぜでしょう。	・自分の気持ちを優先して行動してしまうと、自分だけでなく多くの人の迷惑になる。 ・「みんながいい気持ち」で過ごすためには、みんながきまりを守ろうとすることが大切。	・きまりがあることの意味を考える中で、大切に思うものを守ろうとしている人の気持ちなどに触れ、きまりを守ることでも自分も人が大切に思うものを守っていることに気付く。

（2）学習指導要領を見てみましょう。

④学習指導要領の該当ページに書かれている「大切さ」や「難しさ」、「指導の要点」など。

児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身につけていくことでもある。そのためにも、約束や法、きまりを進んで守ることが出来るようにすることが必要である。しかし、第1学年及び第2学年の段階では、まだ自己中心性が強く、ともすると周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。また、身の回りの公共物や公共の場所の使い方や過ごし方についてどうするのがよいのか、そしてそれはなぜかといった理解は十分とは言えない。

指導に当たっては、身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなでする物や場所を進んで大切に、工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。

（3）「本日の主題」に焦点化して考えてみましょう。

⑤本日の主題はなぜ、児童生徒にとって大切なのだと思いますか。

きまりを守らずに、自分の気持ちを優先して行動していると、みんなが困ることに気付かせるため。

⑥ ⑤に照らして、本学級の児童生徒は、どのような実態にありますか。（できているところ、まだのところ）

本学級の児童は、きまりがあることは理解し、守ろうとする様子が見られる。児童同士で声をかけ合って、きまりを守ろうとする場面も多々ある。また、本学級の児童を対象にした児童生徒等の意識調査（道徳アンケート 12月実施）によると、「学校のきまりを守っている」の項目で肯定的評価をした児童は100%であった。しかし、1学期に行った道徳科の学習「どうしてかな」では、同じことをしているのに褒められたり、叱られたりする主人公の様子からなぜ叱られるのか考える中で「先生に怒られるから」などの意見が目立った。また、日常生活では大人がいる場面では守っているきまりも、児童だけになった途端に守らなくなったり、いけないと分かっている友達がいれば一緒にしてしまったりすることもある。

どんな指導の方法で授業するか、考えましょう。まず「教材」を見てみましょう。

【2】：教材のどこを用いて授業を作るのか、考えよう。

本日の教材名《 おおひとやま 》 ④・中 第《1》学年 出版社・教科書名《 日本文教出版 》

⑦登場人物の役割を捉えよう（主題に照らして）

※主人公はどんなことに悩んでいますか。また他の人物は主人公にとってどのような位置にいますか。

- ・大勢の人がおおひとやまに登りに来て、おまもりにと石を一つずつ持って帰る。
 - ・大勢の人が石を持って帰ったために、おおひとやまの石がなくなり、だんだん山の形が変わってきた。
 - ・「石を持って帰ってはいけない」というきまりができたにも関わらず、石を持って帰るのをやめなかった。
- ↓
- ・結果…国中の自慢の山が小さくなってしまった。

⑧主人公の悩み・葛藤・迷いなどの「難しさ」の部分はどこでしょうか。また、「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったりする部分はどこでしょうか。

- ・きまりがあるのは分かっているけれど、「石を持って帰りたい」という自分の欲求を押さえきれない。
- ・「少しぐらい」「自分だけなら」という考えで行動すると、多くの人に迷惑をかけてしまうことに気付く。
- ・自分の欲求を我慢することで、他の人が良い気持ちになることに気付く。

【3】授業のねらいとゴールの姿、それを導く発問と板書を考えよう。

⑨ねらい：「〇〇する活動を通して、～～～しようとする道徳的な判断力（道徳的心情、実践意欲と態度）を高める」	ねらい：きまりを守らずに、おおひとやまの石を持って帰る人々の気持ちを考える活動を通して、人間の持つ弱さに触れ、自己中心的な考えが積み重なるとみんなが困ることに気付くことから、進んできまりを守ろうとする態度を養う。
⑩ゴールの姿：⑨のねらいが達成されたとして、授業の最後には、例えばどのような言葉が児童生徒から出てくるとよいでしょう。複数考えてみましょう。	「少しぐらいならは、みんなが困る」 「きまりは、自分のためにもみんなのためにも守らないといけない」 「きまりを守れば、みんながよい気持ちになる」
⑪そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「悩みや葛藤など」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。	「どんな気持ちで、こっそり石を一つずつ持って帰ったのでしょうか。」 <u>発言後、「そういう気持ち、分かるねえ」と共感を入れると、子どもは安心する。</u>
⑫そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったり」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。	「おおひとやまが小さくなってしまったとき、村人はどんなことを考えたのでしょうか。」 <u>発言後、「なるほど、そういう考え方が大切なんだね」と共感すると、子どもは今後の生き方にしっかり見通しを持つ。</u>

※上記をもとに、思考を促す発問計画、板書計画を作成していきましょう！

（令和4（2022）年度改訂版 宮里智恵作成を参照）